

令和4年度学校評価 評価結果

| 本年度の重点目標 | | 1. 探究する力を向上させるために ①主体的に学ぶ態度を確立し、様々な知識を活かしながら、物事の真理を探究する姿勢を養う。 ②ICTを積極的・合理的に活用し、様々な観点に立って、物事の真理を探究する姿勢を養う。 2. 共感する力を向上させるために ①共に学び、ともに考えることにより、互いの考えを認め合い発展させる、豊かな人間性を養う。 ②ともに活動し、ともに体験することにより、互いのおこころを思いやり共感する、豊かな人間性を養う。 3. 自立する力を向上させるために ①生徒会活動やHR活動などを通して、自らの役割を理解し責任をもって行動する態度を養う。 ②学校行事や部活動などを通して、自らの意志で積極的に周囲に貢献しようとする態度を養う。 4. 突破する力を向上させるために ①自らの目標達成のため突破すべき課題を設定し、解決に向けて粘り強く努力する姿勢を養う。 ②SDGsなどの取り組みで追究すべき課題を発見し、解決に向けて主体的に学ぶ姿勢を養う。 5. 業務の見直しや効率化を進めるなどの業務改善に取り組み、教職員の健康維持に配慮して在籍時間の適正化を図り、多忙化の解消に努める。 | | | | |
|-----------|----------|--|--|---|--|---|
| 分掌による取り組み | | | | | | |
| 項目 | 分野 | 取り組み内容 | 具体的方策 | 評価結果と課題 | 担当 | |
| 2 | 探究する力の向上 | 1 | 主体的に学ぶ態度を確立し、様々な知識を活かしながら、物事の真理を探究する姿勢を養う。 | ①観点別評価の「学びに向かう姿勢」の評価内容を教科主任者会などを通して共有することで、教科と連携しながら主体的に学ぶ姿勢の育成を図る。 ②知識の定着を図るためのツールとしてスタディサプリ等の活用を教科担、生徒に働きかける。 ③総合的な探究の時間の探究活動と教科学習の横断的な学びに取り組む。 | 観点別評価に基づく評定、また、総合的な探究の時間や各教科・科目での「探究活動」が、本格実施された。今年度の反省に基づき、生徒自身が評価を納得し、その振り返りを次の学びに向かう姿勢につなげられる働きかけをすすめたい。総合的な探究の時間では、1年の新聞切り抜き作品で優秀賞を受賞するなど、探究活動の定着がみられる。また、今年度後半では愛知大学との連携や2年の起業家教育など新しい取組も始めることができた。3年は各自がSDGs解決などの課題に取り組み、総合型選抜などに役立っている。 | 教務部 |
| | | 3 | ICT活用 | 「主体的なICT教育のあり方」 授業等における生徒の主体的な活動を支えるために情報機器の活用方法を検討する。 | 年度当初の新入生へのタブレット配付、在校生のID更新をはじめ、年間を通じて故障対応等にも迅速に対応するなど、物理的にICT活用の機会が失われないよう配慮した。しかし故障・不具合時に代替機が必ずあるわけではなく、担当者自身も授業を抱える中で対応する時間も限られている。タブレット使用をメインとした授業を行うには、物品や体制面など現場の力だけではどうにもならない課題が山積している。 | 情報図書部 |
| 7 | 自立する力の向上 | 1 | 本校生徒に応じた進路情報の発信 | ①生徒向け「進路通信」を必要に応じて、保護者向け「進路だより」を保護者会などの機会に発行し、進路指導に関する情報を発信する。 ②生徒にGoogle Formを用いてアンケートを実施。利用状況を確認する。 | アンケートから生徒の9割以上が「進路通信」を読み、そこから進路に関する情報を得ていることが分かった。また、通信を読んで進路やキャリア体験について進路室に入室する生徒もいる。今後は生徒が読みやすくなるよう見出しを工夫したり、保護者も読んで参考になるような記事を掲載したりするなど誌面作りを考える必要がある。 | 進路指導部 |
| | | 3 | ICTを活用して主体的に考え行動する生徒の育成 | ①文化祭のクラス発表の立案・運営に際し、各自に役割・責任を持たせ、協力する場面を設定する。 ②新たな外部施設で実施する体育祭で、生徒が運営に主体的に関わる態度を養う。 ③様々な状況に応じて、ICTを活用して活動運営を円滑にする。 ④生徒会活動や行事を通して、広く学校外への関心を持たせる。 | 文化祭では、コロナ禍の現状が続くことを想定しながら、実施する方策を生徒に考えさせる。また体育祭においては、外部施設での実施で生徒主体での運営が継続していくようにする。生徒会執行部に関しては、積極的に立候補する生徒が増えてきているので、来年度はさらに様々な活動により自主的に取り組み、自ら考え行動する生徒を育成していく。 | 特別活動部 |
| 8 | 自立する力の向上 | 3 | 委員会・係活動における主体的な取組を促すために | ①現行の委員会・係活動の役割・内容明示 ②計画・役割分担 ③現行活動の充実を図るための提案 ④新たな活動の提案、および実行計画 | 生徒の委員会・係活動への取組自体は、まじめに取り組んでくれている。しかし、主体的な取組となると、もう少し踏み込んだ運営(教員側)のアプローチが必要となってくる。運営(教員側)のより細かな準備・計画と、生徒との綿密なコミュニケーションをはかることにより、主体的な委員会・係活動をさらに充実させ、主体的な校内衛生美化活動に発展させていきたい。 | 保健部 |
| | | 1 | 自立する力の向上 | 生徒が主体的に参加する学校説明会の実施 | ①総務係を中心に本校生徒が中学生に学校の魅力を伝える場を提供する。 ②企画の段階から生徒を積極的に参加させる。 | 本年度リニューアルした学校説明会は、天白高校の日ごろの様子やよい雰囲気や伝わりと中学生に大好評であった。中学生にプレゼンした本校生徒は貴重な経験ができ、責任をもってやり遂げたという充実感があつた。今後は、中学生が天白高校に憧れを抱くような学校説明会になるように質を高めていきたい。 |
| 5 | 自立する力の向上 | 3 | 交通安全意識の向上と遅刻の減少 | ①全職員に共通理解を得るとともに、警察などとの連携を図る。 ②生活交通委員会の交通安全啓発活動を促進する。 ③職員会や集会などを通じて交通安全に関する情報提供を行う。 | 交通安全キャンペーンなど地域・警察との連携を展開できた。「生徒指導部だより」やHR掲示を活用し、交通安全の大切さを生徒に周知した。しかし、生徒の交通マナーには問題が多く、登下校時における自転車事故も多い。更なる取組が必要である。生徒の生命を守るために自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかけていきたい。 | 生徒指導部 |
| | | 4 | 自立する力の向上 | 支援が必要な生徒の早期発見・早期対応、及びそれにつながるチーム支援の構築 | ①担任による面談やアンケート等から心理的な負担を抱える生徒を早期に把握し、自身の自立に向けてチームで支援できるよう努める。 ②「相談室だより」の定期的発行や掲示物等を通して、メンタルヘルスクエアの啓発に努める。 ③不適応状態になった生徒、保護者に適切な援助を行い、必要に応じてSCやSSWにつなげ、関係職員の連携を図るよう努める。 | 日ごろから生徒についての情報交換及び共有を綿密に行い、関係職員と連携することで、支援を必要としている生徒を早期に発見し、速やかに対応できるように努めた。また、SC(スクールカウンセラー)による専門的な指導や助言を受けたことで、生徒の状況が好転したり、日常の生徒対応に生かしたりすることができた。来年度はさらに手厚い支援を行うとともに、生徒が自立する力をつけていけるよう努めたい。 |
| 9 | 共感する力の向上 | 4 | いじめの早期発見と、適切な事案対応 | ①いじめの情報収集、事案対応に係る「いじめ対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、「いじめのサイン発見シート」を保護者に配付し、啓発を図る。 ②早期発見・事案対応の手順等(マニュアル)を定め、共有することにより、「いじめの認知」について教員間の共通理解を深める。 ③生徒に対して、定期的に「こころのアンケート」を実施することによって、いじめを早期に発見し、適切な対応につなげる。また、掲示物等を通して、「共感する力」の啓発に努める。 | 「いじめのサイン発見シート」を配付し、いじめ防止の啓発や「こころのアンケート」を定期的実施することによって、悩みを持つ生徒の早期発見・情報共有・早期対応に繋げることに努めた。来年度以降もアンケートを活用した情報共有を継続するとともに、いじめの防止や早期発見、「共感する力の向上」に資する啓発活動にさらに取り組んでいきたい。 | いじめ対策委員会 |
| | | 5 | 業務改善と多忙化解消の適正化 | ① 年次休暇を年5日以上取得するように促す。 ② 在籍時間が80時間を超える職員には面接を促す。 ③ 年間12回(月1回程度)定時退校日を適正に実施する。 | 職員の心身の健康を守るうえで、障害の要因となる長時間労働はおおかた防ぐことはできた。しかし、まだ、大きな負担をかけている職員がいるので改善していきたい。また、健康に仕事ができるように労働環境の適正化に今後も取り組む。 | 安全衛生委員会 |
| 学年による評価 | | | | | | |
| 11 | 自立する力の向上 | 第1学年 | 学習習慣の定着と自己管理力の確立 | ①計画性を持って、主体的に家庭での活動を選択できるよう、より良い学習習慣・生活習慣を身につけさせる。 ②提出物を期日を守って提出することで、期限を意識して物事をやり遂げる力を身につけさせる。 | ICTを活用した学習活動や各定期考査での目標設定、振り返りをおこない、PDCAサイクルを意識した取り組みをすることができた。今後は生徒個々の学習習慣の定着を目指し、生徒の学習の質を上げるための情報提供や働きかけを充実させていきたい。 | |
| | | 第2学年 | 探究する力の向上 | 進路目標の具体化 | ①必要な進路情報を適切な時期に提供し、進路に対する意識を高め、進路目標を具体化させる。 ②進路目標の実現につながるよう、学習習慣を確立させる。 | 日頃からの個人面談や総合的な探究の時間を通して、進路研究を行い、その意識の向上を促すことができ、それに伴う学習習慣の確立に努めることができた。引き続き、個々の意識の向上と、学習計画の実行をサポートするとともに、学年全体として、よりよい雰囲気を作り、その中で、個々の進路目標を達成できるよう、支援していきたい。 |
| 13 | 突破する力の向上 | 第3学年 | 進路目標の実現 | ①進路に関する最新の情報を学年団で共有し、生徒と保護者に適切に提供する。 ②学習講座、校外模試、スタディサプリなどの学習ツールの積極的な活用を促し、見通しを持った学習へと導く。 ③定期的な個人面談を通して生徒個々の現状や課題を把握し、進路目標の実現に向けて的確な進路指導を行う。 | 進路に関する最新の情報を細やかに提供することを心掛けた。学習講座、校外模試、スタディサプリ等を個々のニーズに合わせて活用して学習の効果を高めた。自習室を開放し、生徒同士互いに切磋琢磨しながら年間を通して勉強に向かう姿が多く見られた。入試の形態が多様化しており、今後はより一層生徒一人一人に適したサポートを心掛けていく必要がある。 | |
| | | 総合評価 | 各分掌・学年がコロナ禍でも創意工夫をして重点目標の達成に意欲的に取り組んだ。保護者へのアンケート結果でも一定の評価を得ている。来年度以降も新たな課題に対応し、さらに活力と魅力のある学校づくりに粘り強く取り組んでいきたい。 | | | |